

## 登別の未来これから

僕たちのまち、登別の将来の姿を大人と子どもで創つていこうというのが登別市まちづくりアクションプラン『子供まちづくり会議』でした。

この会議では自分たちの校区の良い（美しい）所や悪い所を写真に撮り、自分たちの考えや訴えなどを地図に書き込みました。

僕は、この会議に参加して、今まで全く関心がなかったまちづくりに対して、自分の考えを持つことができました。また、他の学校、グループの考えも聞くことができて新しい発見がたくさんできました。



▲登別の貴重な財産『登別地獄谷』

会議の後半で選んだ登別八景の中には、これまで何気なく見ていたところもあり、説明を聞き改めてその美しさに気づくことができました。

最後の発表でうまくしゃべれるか、少し心配だったけど、堂々と自分たちの考えや訴えなどを発表することができました。発表の中で多かったのは、ごみの不法投棄でした。登別は『温泉のまち』として国内、国外からも観光客が来るまちなのに、このような状態でいいのでしょうか。これでは、登別の良さが伝わらないのではないのでしょうか。

この問題は、学校や団体に動くのではなく、市や町で動くクリーン作戦を行えば、市のごみ問題に市民が関心を持ち、市民一人ひとりの自覚も高まり、解決すると思います。そして、未来を創る僕たちがその意思を受け継ぎ、まちの伝統や想いととも、恵まれた豊かな自然を大切に未来に残すことができれば、さらにすばらしいまちになっていくと思います。

（千歳町／12歳 上田 諒さん）

## ぜひこのものに感謝

2001年4月、茨城県水戸市から登別市へ引っ越してきた。

来た当初は、西も東もわかるはずもなく、毎日が探険・毎日が旅人気分、子どもと二人、結構楽しんでいました。新しい環境にもようやく慣れてきたなあと思うころには、同時に、実家の

ある水戸に帰りたいと思う気持ちが頭をもたげ始めた。それからは、海を眺めては「帰りたい」と思うようになった。

そうこう言いながらも月日は過ぎて、今、新年を迎えられたことに感謝。全てのものにありがとう。

2002年の私へ。年が改まるといつも思うこと三つ。①和顔愛語・いつも笑顔でやさしい言葉を。②慈悲の心その人の気持になつて、嬉しいこと、悲しいことを一緒に分かち合つて。③おかげ様・目に見えるもの、見えないもの全てのおかげ様に感謝して。

繁雑な日常に紛れて、気がつくすつかり忘れていたこの三つ。

2002年もこの三つをいつも心に刻んで、二年目を迎える北海道での日々を送りたいと思う。

（鷺別町／38歳 河上邦子さん）

## 21世紀の登別の あるべき姿

昨年は、10年間続けてきたフラワーパレットのほりべつ「花を育てる、心を育てる・人づくりのイベント」にピリオドを打ち、これを土台にして21世紀にふさわしいイベントを模索しました。

手始めに、登別を知ろう、探そうと「2001年、のほりべつ探険物語」を開催しました。町民アンケート・アンケートラリー・ヘリコプター遊覧・イルカウォッチング・熱気球遊覧など色々な視点から登別を見ました。また、



▲2001年のほりべつ探険物語のオープニングで披露された、登別中学校吹奏楽部の演奏

海産物市・料理の鉄人コンテスト・くん製体験などの特産物の販売・研究も試みました。このイベントにより、登別の多くの可能性を再発見することができました。

2002年は、これを生かし21世紀の登別のあるべき姿（目標を明確にして）に照らし合わせながらまちづくりを進めて行きます。登別地区は多くの自然に囲まれ、高速道のインターチェンジやJR登別駅などの登別温泉の玄関口として地理的条件、登別マリンパークや登別漁港などすばらしい産業にも恵まれ、これらをいかに結び付け、より付加価値を付けていくかが今後のまちづくり・イベントに求められていると思われまます。

2002年は、このようなイベントを登別のまちを舞台に開催しますのでご協力、ご期待ください。

（登別東町／41歳 成田光男さん）